（様式第４号－２）

研　修　区　分　表

令和６年６月２４日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
1　職務の理解　（6 時間）	6	－	－	6	【到達目標】 ●これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について具体的イメージを持って実感できるようにする。 ●介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具多的イメージを持って以降の研修に実践的に取り組めるようにする。
(1)多様なサービスの理解	3	—	－	3	【講義内容】 ●介護保険による居宅サービス ●介護保険による施設サービス ●介護保険外のサービス
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	—	－	3	【講義内容】 ●介護サービスを提供する現場の理解 ①訪問介護②通所介護③グループホーム④小規模多機能型居宅介護⑤介護老人福祉施設⑥介護老人保健施設⑦軽費老人ホーム⑧障害者支援施設 ●介護サービスの提供に至るまでの流れ ●介護過程とチームアプローチ ①チームアプローチにおける介護職の役割②地域連携とは 【演習】 ・グループワークで介護職のイメージを話し合い、仕事の内容を理解する。
2　介護における尊厳の保持・自立支援　（9 時間）	9	－	－	9	【到達目標】 ●介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚する。 ●自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたって基本的視点を理解する。
(1)人権と尊厳を支える介護	3	－	－	3	【講義内容】 ●人権と尊厳の保持 ①介護における権利擁護と人権尊重②介護における尊厳保持の実践③エンパワメントの視点④利用者のプライバシー保護 ●ICF ①ICF の考え方②ICF の視点とアセスメント ●QOL ①利用者の QOL②QOL を広げる視点 ●ノーマライゼーション ①ノーマライゼーションの二つの大きな流れ②近年のノーマライゼーションの展開 ●虐待防止・身体拘束禁止 ①高齢者虐待の現状と課題②高齢者虐待防止法③身体拘束の禁止④障害者虐待防止法

					【演習】 ・尊厳保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れた介護の目標や展開についてグループ討議等で理解を深める。 ・事例検討：身体拘束に関する事例からしてはいけない行動を探る。
(2)自立に向けた介護	3	―	―	3	【講義内容】 ●自立支援 ①介護における自立②自立への意欲と動機づけ③残存機能の活用④重度化の防止⑤その人らしさの理解 ●介護予防 ①介護予防と介護保険②生活における介護予防の視点
(3)人権に関する基礎知識	3	―	―	3	【講義内容】 ●人権に関する基本的な知識、同和問題等を理解する。高齢者への配慮。
3　介護の基本　　(6時間)	6	―	―	6	【到達目標】 ●介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づく ●職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 ●介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができるようになる。
(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5	―	―	1.5	【講義内容】 ●介護環境の特徴の理解 ①訪問介護と施設介護サービスの違い②地域包括ケアの方向性 ●介護の専門性 ①利用者主体の支援姿勢②利用者の生活意欲と潜在能力の活用③自立した生活を支えるための援助④重度化防止・遅延化の視点⑤チームケアの重要性⑥根拠のある介護 ●介護にかかわる職種 ①多職種連携の理解②異なる専門性を持つ職種の理解
(2)介護職の職業倫理	1.5	―	―	1.5	【講義内容】 ●職業倫理 ・専門職の倫理の意義 ●介護福祉士の倫理 ①介護職に求められる法的規定②介護職に求められる行動規範
(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	―	―	1.5	【講義内容】 ●介護における安全の確保 ①介護におけるリスクマネジメント②リスク回避と尊厳の保持 ●事故予防、安全対策 ①リスクマネジメントの必要性②事故防止、安全対策の実際③介護事故発生時の対応④介護事故の報告 ●感染対策 ①生活の場での感染対策②感染対策の３原則

(4)介護職の安全	1.5	―	―	1.5	【講義内容】 ●介護職の心身の健康管理 ①健康管理の意義と目的②こころの健康管理③からだの健康管理 ●感染予防 ①感染管理②衛生管理 【演習】 腰痛予防、感染症対策を踏まえた手洗い、うがい等を演習により理解を深める
4　介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）	9	―	―	9	【到達目標】 介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを習得する。
(1)介護保険制度	3	―	―	3	【講義内容】 ●介護保険制度創設の背景および目的、動向 ①人口の少子高齢化と家族による高齢者介護の限界②1990 年代までの高齢者介護の制度と社会福祉基礎構造改革。③介護保険制度の基本理念 ●介護保険制度のしくみの基礎的理解 ①介護保険制度の概要②保険者・被保険者③保険給付の対象者④保険給付までの流れ⑤保険給付の種類と内容⑥地域支援事業 ●制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ①国・都道府県・市町村の役割②その他の組織の役割③介護保険の財政
(2)医療との連携とリハビリテーション	3	―	―	3	【講義内容】 ●医行為と介護 ①医行為とは護②在宅支援における介護職と医行為の実情と経過③施設における介護職と医行為の実情と経過④チーム医療 ●訪問看護 ①どんなサービスなのか②介護職と看護職の専門性と連携のポイント ●施設における看護と介護の役割・連携 ①施設での看護と介護の連携の必要性②看護職と介護職の専門性と連携のポイント ●リハビリテーション ①リハビリテーションとは②リハビリテーション医療の過程③リハビリテーションと介護の連携 【演習】 ・リハビリテーション医療と介護の連携についてグループ討議の中で重要性を探る。
(3)障害者福祉制度 およびその他制度	3	―	―	3	【講義内容】 ●障害者福祉制度の概念 ①障害と障害者の概念②障害福祉理念としての「自立」 ●障害者自立支援制度のしくみの基礎的理解 ①障害者自立支援法から障害者総合支援法へ②サービスの種類と内容③サービス利用の流れ④自立支援給付と利用者負担

					●個人の人権を守る制度の概要 ①日常生活自立支援事業②成年後見制度③苦情解決の制度④個人情報保護に関する制度⑤消費者保護法
5　介護におけるコミュニケーション技術　（6時間）	6	—	—	6	【到達目標】 高齢者やしょうがい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限のとるべき（とるべきでない）行動例を理解する。
(1)介護におけるコミュニケーション	3	—	—	3	【講義内容】 ●コミュニケーションの意義、目的、役割 ①対人援助関係とコミュニケーション②人間的・効果的なコミュニケーションの基本 ●コミュニケーションの技法 ①メッセージの送り手と受け手②言語的チャンネルと非言語的チャンネル ●利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ①利用者の思いを把握する②意欲の低下の要因を考える③利用者の感情に共感する④家族の心理を理解する⑤信頼関係を形成する⑥自分の価値観で家族の意向を判断し、非難しない ●利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ①視力の障害に応じたコミュニケーション技術②聴力の障害に応じたコミュニケーション技術③失語症に応じたコミュニケーション技術④認知症に応じたコミュニケーション技術 【演習】 ２人一組で、状況、状態に応じた利用者・介護者双方向のコミュニケーションのロールプレイングを行う。 ・グループに分かれ、ロールプレイングでの気づきを話し合う。
(2)介護におけるチームのコミュニケーション	3	—	—	3	【講義内容】 ●記録における情報の共有化 ①記録の意義と目的②記録の種類③記録の書き方と留意点④記録の保護と管理 ●報告・連絡・相談 ①報告・連絡・相談の意義と目的②報告・連絡・相談の具体的方法と留意点 ●コミュニケーションを促す環境 ①会議の意義と目的②会議の種類と運用 【演習】 ・個別援助計画書、ヒヤリハット報告書を実際に作成する。 ・グループに分かれ、カンファレンスの模擬体験をする。
6　老化の理解　（6時間）	6	—	—	6	【到達目標】 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。

(1)老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴	3	―	―	3	【講義内容】 ●老化と老年期 ①老化とは②高齢者と老年期の定義 ●老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ①老化による心理や行動を理解するための視点②社会的環境の変化と心理 ●老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ①身体機能の変化②感覚機能の変化③咀嚼機能・消化機能の変化④循環器の機能の変化⑤呼吸器の機能の変化⑥筋、骨、関節の機能の変化⑦泌尿器の機能の変化⑧体温維持機能の変化⑨記憶機能の変化⑩認知機能の変化 【演習】 ・グループに分かれ、老化に伴う心身の変化、かかりやすい疾病について討議する中で、生理的な側面から理解することの重要性を考える。
(2)　高齢者と健康	3	―	―	3	【講義内容】 ●高齢者の症状・疾患の特徴 ①高齢期の健康②高齢者の症状・疾患の特徴 ●高齢者の疾病と日常生活上の留意点 ①痛み（腰痛）②痛み（骨・筋肉・関節）③浮腫（むくみ）④便秘⑤下痢⑥誤嚥 ●高齢者に多い病気と日常生活上の留意点 ①生活習慣病②運動系の病気③知覚系の病気④呼吸器の病気⑤腎・泌尿器の病気⑥消化器系の病気⑦循環器の病気⑧脳・神経系、精神の病気⑨介護保険の特定疾病⑩感染症 【演習】 ・症状の小さな変化にどのようにすれば気づけるか、グループ討議の中で理解を深める。
7　認知症の理解　（6時間）	6	―	―	6	【到達目標】 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則を理解する。
(1)認知症を取り巻く環境	1.5	―	―	1.5	【講義内容】 ●認知症ケアの理念 ①その人を中心としたケア ②その人らしくあり続けるための支援の実現 ●認知症ケアの視点 ①問題視するのではなく、人として接する ②できないことではなく、できることをみて支援する
(2)　医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	―	―	1.5	【講義内容】 ●認知症の概念 ①脳の機能と認知症②認知症とは③認知症ともの忘れとの違い④認知症に類似した状態 ●認知症の原因疾患とその病態 ①アルツハイマー型認知症②血管性認知症③レビー小体型認知症④前頭側頭型認知症（ピック病など）⑤クロイツフェルト・ヤコブ病⑥慢性硬膜下血腫

					●原因疾患別ケアのポイント ①アルツハイマー型認知症のケア②血管性認知症のケア③レビー小体型認知症のケア④前頭側頭型認知症のケア ●健康管理 ①認知症の治療②認知症の予防 【演習】 ・健康な高齢者の物忘れと認知症による記憶障がいの違いについて、グループ討議の中で理解を深める。
(3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5	―	―	1.5	【講義内容】 ●認知症の人の生活しょうがい、心理・行動の特徴 ①認知症の中核症状 ②認知症の行動・心理症状（ＢＰＳＤ） ③認知症と生活環境 ●認知症の人への対応 ①認知症の利用者にかかわる際の前提 ②実際のかかわり方の基本
(4)家族への支援	1.5	―	―	1.5	【講義内容】 ●家族へのレスパイトケア ①レスパイトケアとは②レスパイトの方法 ●家族へのエンパワメント ①エンパワメントとは②家族の力のいかし方 【演習】 ・家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて、グループ討議を行う中で理解を深めていく。
8　しょうがいの理解 （3時間）	3	―	―	3	【到達目標】 しょうがいの概念とＩＣＦ、しょうがい者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。
(1)しょうがいの基礎的理解	1	―	―	1	【講義内容】 ●しょうがいの概念とＩＣＦ ①しょうがいをどうみるのか②障害の定義③国際障害分類と国際生活機能分類（ＩＣＦ） ●しょうがい者福祉の基本理念 ①ノーマライゼーション ②リハビリテーション ③インクルージョン
(2)しょうがいの医学的側面、生活しょうがいなどの基礎知識	1	―	―	1	【講義内容】 ●身体しょうがい ①視覚しょうがい②聴覚、言語しょうがい③肢体不自由（運動機能しょうがい）④内部しょうがい ●知的しょうがい ①知的しょうがいの心理学的概念②知的しょうがいの原因③介護上の留意点 ●精神しょうがい ①精神しょうがい（疾患）の理解②主な精神症状とその対応③精神しょうがいのある人の特徴と介護の留意点

					●発達しょうがい ①発達しょうがいの理解②発達しょうがいの特性③発達しょうがいのある人の生活ニーズ④発達しょうがいのある人の生活の理解と介護上の留意点 ●難病 ①難病とは何か②疾患の特徴③難病による心理・行動の特徴④難病のある人の生活の理解と介護上の留意点 【演習】 ・それぞれのしょうがいの特性と介護上の留意点について、グループ討議の中で理解を深める。
(3)家族の心理、かかわり支援の理解	1	－	－	1	【講義内容】 ●家族の理解としょうがいの受容支援 ①家族支援の視点②しょうがいの受容と家族 ●介護負担の軽減 ①家族を取り巻く社会環境 ②家族支援となるレスパイトサービス 【演習】 障がいの受容のプロセスと基本的な介護の考え方について、グループ検討の中で理解を深める。
9 自立に向けた介護の実際（77 時間）	68	－	7	75	【到達目標】 ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基本的な一部または全介助等の介護が実施できるようにする。 ・尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。
9【Ⅰ介護に関する基礎的理解】 （1）介護の基本的な考え方	3	－	－	3	【講義内容】 ●理論に基づく介護 ①介護の理論 ②「介護」の見方・考え方の変化 ●法的根拠に基づく介護 ・介護の法的根拠 【演習】 ・ＩＣＦに基づく生活支援についてグループ討議をおこない介護とは何かを考えることで、今後の技術演習に活用していく。
9【Ⅰ介護に関する基礎的理解】 （2）介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	－	－	3	【講義内容】 ●学習と記憶に関する基礎知識 ①学習のしくみ②記憶のしくみ ●感情と意欲に関する基礎知識 ①感情のしくみ②意欲のしくみ ●自己概念と生きがい ①自己概念の視点②生きがいとＱＯＬの視点 ●老化やしょうがいを受け入れる適応行動とその阻害要因 ①要介護状態と高齢者の心理 ②不適応状態を緩和する心理 ③施設への入所・入居による環境の変化と心理 【演習】

					・グループ討議により、人の記憶の構造や意欲等を支援に結び付けて考えていく。
9【Ⅰ介護に関する基礎的理解】 （3）介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	―	―	3	【講義内容】 ●生命の維持・恒常のしくみ ①体温②呼吸③脈拍④血圧 ●人体の各部の名称と働きに関する基礎知識 ●骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 ①骨の構造とはたらき②関節のはたらき③筋肉のはたらき④ボディメカニクスの活用 ●中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ①中枢神経と末梢神経②体性神経と自律神経 ●自律神経と内部器官に関する基礎知識 ①感覚器②呼吸器③消化器④泌尿器⑤内分泌⑥生殖器⑦循環器⑧血液 【演習】 ・利用者の様子から普段とは違う身体的変化に気づくにはどうすればよいか、グループ討議を行う。 ・介護教材を活用して人体について理解を深める。
9【Ⅱ自立に向けた介護の展開】 （4）生活と家事	3.5	―	―	3.5	【講義内容】 ●生活と家事の理解 ①自立生活を支える家事②家事援助のポイント ●家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ①調理②洗濯③掃除・ごみ捨て④衣服の補修・裁縫⑤衣服・寝具の衛生管理⑥買い物⑦家計管理 【演習】 ・生活の基本的領域の理解と配慮について、グループ討議の中で理解を深める。
9【Ⅱ自立に向けた介護の展開】 （5）快適な居住環境整備と介護	3	―	―	3	【講義内容】 ●快適な住宅環境に関する基礎知識 ①居住環境とは②安心で快適な生活の場づくり ●高齢者・しょうがい者特有の居住環境整備と福祉用具の活用 ①生活空間と介護②住宅改修③福祉用具の活用 【演習】 ・実際に福祉用具等を見て、触れることにより上記内容についての理解を深める。
9【Ⅱ自立に向けた介護の展開】 （6）整容に関連したこころと からだのしくみと自立に向けた介護	6	―	―	6	【講義内容】 ●整容に関する基礎知識 ①なぜ身じたくを整えるのか ②自立生活を支える身じたくの介護とは ●整容の支援技術 ①洗面②整髪③ひげの手入れ④爪の手入れ⑤化粧⑥衣服の着脱 【実技】

					・口腔ケア（ペア）、衣服の着脱（グループ）の実技演習を行う。 ・装うことや整容の意義について、グループ討議を行う。 ・バイタルチェックの仕方について、演習を行う。
9【Ⅱ自立に向けた介護の展開】 （7）移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	－	－	6	【講義内容】 ●移動・移乗に関する基礎知識 ①なぜ移動をするのか②もっている力の活用と自立支援③ボディメカニクスの活用④重心と姿勢の安定 ●移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法 ①手すり、歩行器、杖②車いす③移動用リフト ④簡易スロープ・段差解消機 ●利用者、介護者にとって負担の少ない移動・移乗の支援 ①体位変換②安楽な体位の保持と褥瘡の予防 ③歩行の介助④ベッド・車いす間の移乗の介助 ⑤車いすの介助 ●移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法 ①精神機能の低下が移動に及ぼす影響 ②身体機能の低下が移動に及ぼす影響 ●移動と社会参加の留意点と支援 ①外出の支援②円滑な外出のための留意点 ③外出先における留意点④社会参加の支援 【実技】 ・利用者、介護者にとって負担の少ない移動・移乗の方法を実技の中で学ぶ ・車いすの操作、ベッド、車いす間の移乗 ・車いす、洋式トイレ間の移乗 ・屋外での移動介助の練習（車いす・歩行器・杖等） ・褥瘡予防のための体位交換（シーツ交換等）
9【Ⅱ自立に向けた介護の展開】 （8）食事に関連したこころと からだのしくみと自立に向けた介護	6	－	－	6	【講義内容】 ●食事に関する基礎知識 ①なぜ食事をするのか ②食事に関連したこころのしくみ ③食事に関連したからだのしくみ ●食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 ①「おいしく食べる」を支援するために ②食事の介助③食事関連用用具④誤嚥・窒息の防止 ⑤低栄養の改善と予防⑥脱水の予防⑦口腔ケア ●楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 ①精神機能の低下が食事に及ぼす影響 ②身体機能の低下が食事に及ぼす影響 ●食事と社会参加の留意点と支援 【実技】 ・嚥下の体操、水分摂取の方法、食事介助の方法などを利用者の状況によりその違いを学ぶ。

9【Ⅱ自立に向けた介護の展開】 （９）入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	－	－	6	【講義内容】 ●入浴、清潔保持に関連する基礎知識 ①なぜ入浴・清潔保持を行うのか ②入浴・清潔保持に関連したこころのしくみ ③入浴・清潔保持に関連したからだのしくみ ●さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法 ①「気持ちのよい入浴」を支援するために ②一部介助を要する利用者への入浴の介助 ③浴室の空間構成④入浴設備と関連用具 ⑤手浴・足浴の介助⑥洗髪の介助⑦清拭 ●楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 ①精神機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 ②身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 【実技】 ・入浴の介助方法、全身清拭の方法、足浴・手浴・洗髪の方法など、清潔保持に関連する実技演習を行う。
9【Ⅱ自立に向けた介護の展開】 （１０）排泄に関連したこころ とからだのしくみと自立に向けた介護	6	－	－	6	【講義内容】 ●排泄に関する基礎知識 ①なぜ排泄をするのか ②排泄に関連したこころのしくみ ③排泄に関連したからだのしくみ ●排泄環境の整備と関連する用具の活用方法 ①「気持ちのよい排泄」を支援するために ②排泄の介助③トイレの環境④排泄関連用具 ⑤便秘、下痢への対応 ●爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 ①精神機能、判断力の低下が排泄に及ぼす影響 ②身体機能の低下が排泄に及ぼす影響 【実技】 ・ポータブルトイレとベッドの介助と移乗の方法 ・横臥の状態での尿器等の使用方法と介助方法 ・おむつ交換の方法
9【Ⅱ自立に向けた介護の展開】 （１１）睡眠に関連したこころ とからだのしくみと自立に向けた介護	5.5	－	－	5.5	【講義内容】 ●睡眠に関する基礎知識 ①なぜ睡眠が必要なのか②睡眠を引き起こすしくみ ③睡眠の種類 ●睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 ①「安眠」を支援するために②寝室の空間構成 ③睡眠と薬 ●快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法 ①睡眠不足が及ぼす影響 ②加齢による心身の変化が睡眠に及ぼす影響 ③病気やしょうがいが睡眠に及ぼす影響 【実技】 ・安楽な姿勢、体位の実技、寝室の工夫、安眠のための環境について、実技から考えていく。 ・ベッドメイキング

9【Ⅱ自立に向けた介護の展開】 （１２）死にゆく人に関連した こころとからだのしくみと終末期介護	5	－	－	5	【講義内容】 ●終末期に関する基礎知識 ①終末期の理解②終末期の変化の特徴 ●生から死への過程 ①看取りの現状②尊厳死 ●「死」に向き合うこころの理解 ①「死」に対するこころの変化 ②「死」を受容する段階 ③家族の「死」を受容する段階 ●苦痛の少ない死への支援 ①終末期において何を支えるのか ②終末期の介護において介護職に求められるもの ③チームで支える終末期の介護 ④死に対する心理の理解 【演習】 ・生から死への過程の中で介護者としてどのようにかかわっていくのか、グループ討議の中で理解を深めていく。
9【Ⅱ自立に向けた介護の展開】 （１３）施設実習	－	－	7	7	【実習】 ●さらにより効果的な研修となることをめざし、施設介護実習（デイサービス）を実施する。 ●これまで学んだ「こころとからだのしくみと自立に向けた介護」が現場でどのように展開されているかを知る。
9【Ⅲ生活支援技術演習】 （１４）介護過程の基礎的理解	6	－	－	6	【講義内容】 ●介護過程の目的・意義・展開 ①根拠にもとづいた介護の実践 ②介護過程の展開イメージ ●介護過程とチームアプローチ ・チームアプローチにおける介護職の役割 【演習】 ・グループに分かれて、事例についてのアセスメントを考え、介護計画を作成して発表する中から様々な課題を見つけていく。
9【Ⅲ生活支援技術演習】 （１５）総合生活支援技術演習	6	－	－	6	【講義内容】 （事例による展開） ●生活の場面での介護については、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ①事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（1事例 1.5時間程度で上のサイクルを実施する。） ②事例は下記から２例を選択して実施。 【実技】 ・事例１：「食べたくない」と訴える施設入所者の支援

					・事例２：できるだけ外に出かけたいと思っている利用者の支援 ・事例３：トイレでの排泄にこだわりを持つ利用者の支援 　事例に関連して「衣服着脱介助」「移動介助」「食事介助」「排泄介助」「入浴介助」の５つの場面について、日常生活の支援を行う場合の介護方法、その介護方法がなぜ必要なのかをグループに分かれて討議する。
10 振り返り　（4 時間）	4	－	－	4	【到達目標】 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。
（１）振り返り	2	－	－	2	【講義内容】 ①研修を通して学んだこと ②今後継続して学ぶべきこと ③根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等） 【演習】 ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを、グループ討議の中で振り返りと確認を行う。
（２）継続的な研修の必要性	2	－	－	2	【講義内容】 ①継続的に学ぶべきこと ②研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例を紹介 【演習】 ・これからの介護職のあり方、また何が求められているかについて、グループで話し合う。

※記載内容は、要綱の別紙２の内容を網羅したものとすること。
※講義と演習は一体的に実施すること。「目標、内容等」は目次を設けて分かりやすく記載すること。なお、科目９の(6)から(11)および(15)の実技演習は、実技内容等を記載すること。
※時間配分の下限は３０分単位とする。